



みどりの大使が行く!



2025
ミス日本
みどりの大使

佐塚 ころこ

木の温もりが伝わるウッドデザイン

ミス日本みどりの大使としての1年間の活動も終盤になり、改めてこの経験の濃密さと貴重さを心から実感しています。12月



10日には東京国際展示場で行われた「ウッドデザイン賞2025」表彰式に参加しました。会場にはアイデアにあふれた作品が多数展示されており、木という身近な素材の可能性と日常生活に取り入れる楽しさを肌で感じました。一つひとつの作品から、作り手の思いや創造力、そして木の温もりが伝わり、暮らしに木を取り入れることの大切さを改めて実感しました。

連載最終回を迎えて

情報誌「林野」の連載も今回で最終回となります。みなさんに森林の大切さや木の文

化をお伝えるため、様々な地域の様々な現場に行き、森林や木材に関する取組やイベントを紹介してきました。これまでの活動を振り返ってみようと思います。

キノハナワークショップマスタアの活動を通じて

6月に取得した「キノハナワークショップマスタア」の資格も、この1年間で大いに活かすことができました。特に印象的だったのは、ワークショップに参加した子どもたちが木の感触や香りを五感で確かめながら、「ザラザラしてる」「木のいい匂いがする」と楽しそうにキノハナを作る姿です。一人ひとりの個性が表れる世界に一つだけの花束を完成させ、笑顔で持ち帰る姿を見るたび、木と触れ合う喜びや木づかいの楽しさを子どもたちと共有できたことに、心から幸せを感じました。私自身がかつて緑の少年団に所属していたこともあり、ワークショップを通じて全国の緑の少年団の子どもたちと関わったことは、懐か



しさと喜びが重なり、とても楽しい思い出となりました。

地方の活動で見えてきた地域ならではの特色

地方での活動では、その土地の方々が温かく迎えてくださるので、毎回のお仕事を楽しみになり、心からやりがいを感じる事ができました。地域ごとに異なる自然の特色を活かした取組や、木材をどのように有効活用して地域の発展や復興につなげるかについて教えていただくことも多く、地域ごとの工夫の違いを学ぶのはとても面白く、新鮮な経験となりました。子どもたちに森林の大切さを伝える方法も地域ごとに工夫されており、それぞれの地域ならではの特色や文化と自然との関わりの多様さを感じることができました。

現場から学んだ林業の奥深さ

長野県出身である私は、森林や林業についてある程度知っているつもりでした。しかし、林業現場を視察し、働く方々の話を聞くことで、その奥深さを改めて知りました。林業は単に木を育てて伐採する仕事ではなく、多様な生物との共生や地域社会とのつながり、持続可能な資源利用などの多くの課題と向き合う職業です。その一方で、課題を乗り越えた先に感じられるやりがいや達成感、自然の恵みに触れながら働



「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)

学びの多い1年になりました

この1年間で学んだ最も大きなことの一つは、自然や木との関わりが単なる体験としての楽しさにとどまらず、未来の地球や環境を守る大切な活動であるということだ。森林を循環させ、資源や環境を次の世代へつなぐことの重要性を実感しました。私たち一人ひとりの関わりや工夫が、森林の未来を守る一歩につながるのだと学びました。みどりの大使として、人前で話すことや地域の方々と関わることで、環境や自然について学び、発信することにより、自分の視野が大きく広がったと感じています。活動が終わっても、自然との関わりや木に触れる楽しさ、そして日本の美しい森林や林業を未来へつなぐ意識は、大切にしていきたいです。

みどりの大使の経験を活かして

私はこれからアナウンサーを目指していきます。みどりの大使の活動で得た経験は、人に伝える力や、物事の背景を理解して発信する力の大切さを学ぶ貴重な時間でした。

した。これからも幅広い知識の習得と実践を目指し、挑戦を続けていきたいと思えます。木や自然、人との関わりから学んだことを生かし、視野を広げ、多くの人に正確で心に響く情報を届けられるよう努力を重ねていきたいです。大使として過ごしたこの1年間は、私にとって人生の宝物になりました。キノハナ作りを通して出会った子どもたちの笑顔、地方で温かく迎えてくださった地域の方々、そして林業現場での学びのすべてが、私の中で経験となり、これからの挑戦を支えてくれる大切な糧になりました。木のぬくもりや自然の中で得た学びを胸に、これからも前向きに挑戦を続けてまいります。

フォトギャラリー

